

薬剤感受性検査のブレイクポイントならびに 感受性カテゴリー内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、一般細菌薬剤感受性検査の判定基準を CLSI M100-S23(2013)および EUGAST Version7.0(肺炎球菌の PCG のみ)から CLSI M100 31st Edition(2021)および EUGAST Version11.0(肺炎球菌の PCG のみ)へ変更することとしましたので、取り急ぎご案内致します。

また、これまで感受性カテゴリーにつきましては、可能な限り類薬または類縁菌種のブレイクポイントを用いて参考値として報告させていただいておりましたが、昨今の抗菌薬適正使用の観点から、これを廃止し、エビデンスのしっかりした薬剤のみカテゴリーを報告することに変更させていただきます。なお、酵母様真菌薬剤感受性の感受性カテゴリーにつきましても、同様にエビデンスのしっかりした薬剤のみカテゴリーを報告します。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■変更内容

- 一般細菌薬剤感受性検査のブレイクポイントならびに感受性カテゴリー設定変更
および酵母様真菌薬剤感受性検査の感受性カテゴリー設定変更
※裏面に変更例を示します。

■変更期日

- 2024年1月4日(木)受付分より

以上

※網掛け部分が変更箇所です。

【変更例 1】

変更後

① <i>Acinetobacter baumannii</i>			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
FRPM	1		

変更前

① <i>Acinetobacter baumannii</i>		
MIC	B. P	カテゴリー
1	-/-	S



カテゴリーを参考値としてお返ししていましたが、エビデンスのしっかりとした薬剤のみをお返しします。

また、ブレイクポイントの設定のない薬剤は『-/-』と表記していましたが、空欄となります。

【変更例 2】

変更後

① <i>Streptococcus agalactiae</i> (GBS)			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
CLDM/EM			

変更前

① <i>Streptococcus agalactiae</i> (GBS)		
MIC	B. P	カテゴリー
>0.5	-/-	



CLDM/EM は誘導耐性検出用薬剤の為、今後報告致しません。

【変更例 3】

変更後

① <i>Escherichia coli</i> (ESBL)			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
PIPC	64	16/128	R
CAZ	8	4/16	R

変更前

① <i>Escherichia coli</i> (ESBL)		
MIC	B. P	カテゴリー
64	16/128	I
8	4/16	S



ESBL(基質特性拡張型βラクタマーゼ)のペニシリン系及びセファロスポリン系薬剤のカテゴリーは、全てRに変換して報告致します。

【変更例 4】

変更後

① <i>Serratia marcescens</i>			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
CFPM	8	2/16	D ※1
CAM	>4		* ※2
AZM	4		* ※2

変更前

① <i>Serratia marcescens</i>		
MIC	B. P	カテゴリー
16	8/32	I
>4	-/-	R
4	-/-	R



※1 SDD(用量依存的感性)が設定されている薬剤についてはカテゴリーに『D』と表記して報告致します。

※2 自然耐性(内因性耐性)をもつ菌の薬剤を測定した場合、自然耐性(内因性耐性)であることが分かるようにカテゴリーに『*』と表記して報告致します。

SDD(Susceptible Dose Dependent) 容量依存的感性とは

感性が薬剤投与計画(投与方法、投与量)に依存することを意味しています。つまり、推奨される薬剤投与計画よりも、より高い薬剤暴露となる投与計画を実施すれば、感性となります。